

# 「はまかぜ」(金沢版)

平成 26 年 5 月 9 日号

連載 第53回

横浜市議員 おばた正雄氏 横浜を語る



ヨコハマ会 市議員団  
子どもにツケをまわさない!  
“横浜から日本を創る”

横浜市議 おばた正雄氏

## 〈プロフィール〉

金沢区生れ。旧民社党政策審議会  
で各種政策を研修。昭和 54 年よ  
り横浜市議。現在 9 期。ヨコハマ  
会市議員代表。一貫して教育・行  
財政改に取組。6 年前民主党離党。  
現在、無所属。憲法改正と日本の  
安全に責任を持つ保守新党を模索  
中。神奈川の教育を良くする会会  
員。日本会議会員。自衛隊募集相  
談員。各スポーツ・文化団体顧問。

## 〈ご相談・ご連絡先〉

事務所：金沢区谷津町 332  
TEL：045 - 783 - 7869  
FAX：045 - 786 - 5315  
✉ obatamasao@gmail.com

## 横浜市、9月に「新たな中期計画」の原案策定

### 新中期計画は少子化対策を！

日本の最大の課題は少子・高齢化問題と極端な財政赤字解消などです。横浜は、人口370万人を擁する日本最大の政令指定都であり、これらの課題解決に積極的に取り組むことが期待されています。

「新たな中期計画」を策定しています。ここで、横浜市は、これらの課題解決と持続ある発展を行うための新たな中期4カ年計画を年内に策定します。1月には、策定に向けた議論の出発点となる「新たな中期計画の基本的方向」を公表。その後、基本的方向に対する市民意見の募集とアンケート調査を実施

これを、広報よこはま「特別号」で市民に知らせし、素案に対する「パブリックコメント」を実施。この素案に対するご意見を反映させ、9月に原案の策定を行います。

そこで、5月末に発表される素案の中に日本最大の課題である未来志向の少子・高齢化対策と財政赤字の解消などが盛り込まれているのか。特に、「具体的な目標や取組み内

容」が盛り込まれているか注目しています。さて、林市長が、2020年東京オリンピックを目標として「おもてなし」行政を看板に掲げていますが、新中期計画が、日本と横浜にとって諸課題の解決と、持続ある発展につながるのかを注視しなければなりません。

Q. 「新中期計画」の基本的な考え方は？

A. 3点あり、①防災・減災の取組の強化。生産年齢人口の減少や団塊の世代が2025年に75歳を超す。都市インフラの老朽化等の課題。②2020年の東京オリンピックや羽田空港の国際化など横浜が飛躍するチャンスを生かす。③市民や企業との信頼関係を未来の横浜へつなぎ、新たな第一歩を踏み出すという考え方などです。

Q. 計画の特徴は？

A. 2025年(平成37年)を見据えた骨太なまちづくりの戦略と平成26〜平成29年度の4年間の取組と、次の4年後の東京オリンピックまでに世界に横浜をPRする長期計画です。しかし、市長の意気込みは評価しますが、日本も世界も混沌としている中で、地球温暖化問題や中国・ロシアの覇権主義政策など不透明な状態が続きますので、東京オリンピックを目標にした政策ではなく、中・長期的な少子・高齢化問題の具体策が必要です。